

# 牛久：学校周辺に見る自然

第73号 ひたち野西隣公園

2012年3月18日発行

## ＜ 冬の水辺公園 ～2. ロゼット他（キク科以外） ＞

前号に続いて、キク科以外のロゼットとそれに近い形で冬をこす植物たちの紹介です。



左は、ナズナ。時期による違いなのか、葉の切れこみの深さなどに差があるので、見分けが難しいといわれます。春の七草のひとつで、摘み草にするのは、ロゼットのときです。実の形から「ペンペン草」ともよばれますが、それは、あの実でいたずらっ子のおしりをペンペンたたくからでなく、三味線をひくバチに似ているからだそうです。

**ナズナ(アブラナ科)：科の特徴で、花弁は4枚、十字につく。**



こちらは、同じくアブラナ科のタネツケバナ。第68号で帰化植物のミチタネツケバナのロゼットを紹介しましたが、こちらはもともと日本にある「在来種」。よく似ていますが、こちらは葉や茎に細かい毛が散らばっていて、実が熟すころにはロゼットは枯れています。早春に、ちょっと陽がさして暖かくなると、花を咲かせていたりします。

**タネツケバナ(アブラナ科)：よく似た帰化植物もある。**



次はタデ科の仲間、スイバ。若い茎をかじるとすっぱいので、「スカンポ」ともよばれますが、いつだったか春の観察授業のときに、1時間中かじっているお友だちがいました。よほど気に入ったのでしょね。オスの株とメスの株とがありますが、メスの花穂は赤っぽく、オスの花穂は黄色みがかって見えるので、花が咲けば区別できます。

**スイバ(タデ科)：若い茎はすっぱくて「スカンポ」の別名も。**



こちらは、同じくタデ科のギシギシ。ロゼットの葉はスイバより厚みがあって、ふちが少し波うちます。秋の観察のときに、イモ虫に似たハグロハバチの幼虫が食べていたのはこちらの葉(58号参考)。私は試していませんが、これも若芽などを食べられるそうです。味わいたいものが目の前にゴロゴロあるのに、試せないのは残念でなりません。

**ギシギシ(タデ科)：秋にハグロハバチの幼虫が食べていた。**



次は、北アメリカ原産のメマツヨイグサ。荒地や道ばたなどに多く見られ、「アレチマツヨイグサ」の別名もあります。この仲間は花が夕方に開くので「待宵草」で、みな、帰化植物。茎は花の時期には1～2mくらいまで高く伸びていて、このベタツとした姿からは想像もつかないくらいですが、ずっと同じものを追いかけて観察していくと、それが分かります。  
**メマツヨイグサ(アカバナ科：北米原産)：花は夕方に開く。**



こちらは、ヘラオオバコ。校庭などでよく見られるオオバコよりも、踏みつけの弱いところに生育します。校庭などで、踏みつけの程度と、そこに生える雑草の種類などを比べてみると、おもしろいでしょう。ロゼットの葉が、へらのように細長いので、この名がつけました。花穂が短く、一年中へら形の葉をつけているので、花の時期にみても、それと分かるでしょう。  
**ヘラオオバコ(オオバコ科：ヨーロッパ原産)：オオバコよりも、踏みつけの弱いところに育つ。**



左は、キュウリグサ。ふつう、秋に芽生え、ロゼットで冬をこしますが、春に発芽するものもあるそうです。ロゼットは花の時期には枯れてなくなっています。葉をもむと、キュウリのような香りがすることから、この名がつけました。  
**キュウリグサ(ムラサキ科)：葉をもむと、キュウリのような香り。**



続いて、オランダミミナグサ。第6号で、ナデシコ科の仲間の一つとして紹介しています。花はガクが5枚、花弁も5枚、雄しべの葯(やく)の色合いの違うのが5本ずつ計10本、雌しべの先が5つに分かれています。葉も茎もたいへん毛深いので、花がなくても、パッと見てそれと分かります。毛は腺毛というねばねばの液を出すのが多く、さわるとねばつくのも特徴。  
**オランダミミナグサ(ナデシコ科：ヨーロッパ原産)：葉も茎も毛深い。**



こちらは、田んぼのあぜなどでよく見かけるヘビイチゴ。初夏に真っ赤な実が目立ちます。「ドクイチゴ」という別名もあって、有毒と思いきや、毒はありません。ただし、食べてもおいしくありません。栽培イチゴと同じ実のつくりで種子もつくりませんが、茎が地面をはって、新しい仲間を増やします。  
**ヘビイチゴ(バラ科)：赤い実は、毒はないがまずい。**



次は、おなじみのシロツメクサ、と思いましたが、よく見ると仲間のムラサキツメクサでした。葉の裏に、白くやわらかい毛がたくさんあるので区別できます。葉(小葉)の先がとがり葉裏や茎に毛があればムラサキツメクサ。葉の先がやや凹んで全体無毛ならシロツメクサと覚えておけば、花がなくても見分けられますね。

**ムラサキツメクサ(マメ科：ヨーロッパ原産)：明治のはじめから飼料作物として栽培されたのが、野生化し広がったようです。**



続いてスズメノヤリ。日当たりのよい草地などでよく見かけます。花は3～5月ころに咲きますが、その花穂が大名行列の毛やりに似ていて、小さな草なので「雀の槍」。小さな野草の名前には、よく「スズメ」とか「ヒメ」などにつけられるようです。葉のふちに長い毛があるので、他の仲間と区別できます。

**スズメノヤリ(イグサ科)：葉のふちに長い毛がある。**

最後に、晴れて暖かい日に、もう花を咲かせていた雑草たちを紹介します。

上から、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウです。

【理科支援員 宮内】



上から、オオイヌノフグリ(ゴマノハグサ科：西アジア、中近東原産)、ホトケノザ(シソ科)、ヒメオドリコソウ(シソ科：ヨーロッパ原産)。他にハコベやナズナ、セイヨウタンポポなど、日差しがあると早い時期に咲いている。